



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 持田製薬株式会社

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 専務執行役員 (氏名) 坂田 中

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	73,037	1.2	13,088	9.3	13,328	9.6	9,795	16.6
28年3月期第3四半期	72,169	7.3	11,980	32.5	12,165	32.1	8,398	29.3

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 10,936百万円 (△1.3%) 28年3月期第3四半期 11,083百万円 (56.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	493.36	—
28年3月期第3四半期	422.93	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	144,693	113,123	78.2
28年3月期	137,713	104,929	76.2

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 113,123百万円 28年3月期 104,929百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	67.50	—	82.50	150.00
29年3月期	—	55.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,500	3.5	10,200	△16.1	10,500	△15.3	7,600	△6.8	382.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期3Q	20,980,000 株	28年3月期	20,980,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

29年3月期3Q	1,126,040 株	28年3月期	1,124,451 株
----------	-------------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	19,854,940 株	28年3月期3Q	19,857,984 株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
4. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品等開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、景気の緩やかな回復基調が続いているものの、海外経済の不安定さの影響が懸念されるなど、依然として先行きが不透明な状況で推移しました。医薬品業界では、社会保障費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制政策が継続的に推し進められ、また企業間競争も加速しており、引き続き厳しい事業環境にあります。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点領域の循環器、産婦人科、皮膚科、救急、及び精神科にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、730億3千7百万円、前年同期比1.2%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は、高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」及び持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」等が後発品使用促進策及び薬価改定の影響等により、前年同期売上高を下回りましたが、抗うつ剤「レキサプロ」、子宮内膜症治療剤「ディナゲスト」、慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤「トラムセット」、及びバイオ後続品を含む後発品等が前年同期売上高を上回り、売上高は695億6千1百万円、前年同期比0.9%の増収となりました。

なお、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」を平成28年11月28日から販売しております。また、ヤンセンファーマ株式会社と共同販売を行っている「トラムセット」は、平成29年1月2日より同剤の流通を当社に一本化しました。

ヘルスケア事業は、市場成長が鈍化傾向にあり、また競争も激化しているなかで、抗真菌剤配合シャンプー・リンス等の抗菌ケア製品「コラージュフルフルシリーズ」が堅調に推移し、売上高は34億7千6百万円、前年同期比8.7%の増収となりました。

次に当第3四半期連結累計期間の利益面につきましては、研究開発費の増加を主な要因として販売費及び一般管理費が増加しましたが、医薬品関連事業の売上高増に伴い売上総利益が増加したことにより、営業利益は130億8千8百万円で前年同期比9.3%の増益、経常利益は133億2千8百万円で前年同期比9.6%の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は97億9千5百万円で前年同期比16.6%の増益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーション等の推進を通じた早期開発候補品の導入等により開発パイプラインの充実を図るべく創薬研究の体制を整備し、平成29年1月1日に総合研究所を新設しました。また、統合失調症治療薬、疼痛治療薬（TRPV1拮抗薬）の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、「ディナゲスト」の子宮腺筋症の効能追加について平成28年12月2日に承認を取得しました。また、同剤の月経困難症の効能追加については臨床第Ⅲ相試験を準備中です。関節リウマチ治療剤エタネルセプトのバイオ後続品「LBEC0101」について製造販売承認申請を行いました。慢性便秘症治療剤「AJG533」、関節リウマチ治療剤アダリムマブのバイオ後続品「LBAL」及び骨粗鬆症治療剤テリパラチドのバイオ後続品「RGB-10」の臨床第Ⅲ相試験をそれぞれ実施中です。関節軟骨損傷治療材「dMD-001」は探索的臨床試験（パイロット試験）を実施中です。

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は95億9千8百万円です。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の総資産は、1,446億9千3百万円となり、前連結会計年度末比で69億7千9百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に有価証券が減少しましたが、現金及び預金や投資有価証券が増加したためです。負債の減少は、主に支払手形及び買掛金や電子記録債務が増加しましたが、未払法人税等や賞与引当金が減少したためです。純資産の増加は、主に配当金の支払いがありました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したためです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、平成28年10月31日に公表いたしました連結業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,916	44,941
受取手形及び売掛金	25,938	31,770
電子記録債権	261	453
有価証券	24,184	7,999
商品及び製品	11,346	11,953
仕掛品	1,631	1,338
原材料及び貯蔵品	4,841	4,692
繰延税金資産	2,579	2,013
その他	2,343	3,242
流動資産合計	102,043	108,404
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,367	6,014
機械装置及び運搬具（純額）	2,547	2,422
土地	5,772	5,772
その他（純額）	1,111	977
有形固定資産合計	15,799	15,187
無形固定資産	478	431
投資その他の資産		
投資有価証券	14,150	15,408
繰延税金資産	1,641	1,344
その他	3,600	3,916
投資その他の資産合計	19,392	20,669
固定資産合計	35,670	36,288
資産合計	137,713	144,693

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,139	9,379
電子記録債務	3,116	3,535
短期借入金	500	500
未払法人税等	2,914	885
賞与引当金	2,648	1,381
その他の引当金	726	847
その他	7,749	8,101
流動負債合計	25,795	24,631
固定負債		
退職給付に係る負債	6,444	6,431
その他	543	507
固定負債合計	6,988	6,938
負債合計	32,783	31,569
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	96,598	103,663
自己株式	△5,687	△5,700
株主資本合計	100,012	107,064
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,912	6,785
退職給付に係る調整累計額	△995	△727
その他の包括利益累計額合計	4,917	6,058
純資産合計	104,929	113,123
負債純資産合計	137,713	144,693

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
売上高	72,169	73,037
売上原価	29,035	28,435
売上総利益	43,133	44,602
返品調整引当金繰入額	11	—
返品調整引当金戻入額	—	2
差引売上総利益	43,122	44,604
販売費及び一般管理費	31,142	31,515
営業利益	11,980	13,088
営業外収益		
受取利息	15	6
受取配当金	182	193
その他	106	100
営業外収益合計	304	300
営業外費用		
支払利息	11	8
支払手数料	95	32
為替差損	5	16
その他	6	3
営業外費用合計	118	60
経常利益	12,165	13,328
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	156	—
特別利益合計	156	0
特別損失		
固定資産除売却損	43	20
減損損失	397	—
特別損失合計	441	20
税金等調整前四半期純利益	11,880	13,308
法人税等	3,482	3,512
四半期純利益	8,398	9,795
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,398	9,795

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	8,398	9,795
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,462	873
退職給付に係る調整額	223	268
その他の包括利益合計	2,685	1,141
四半期包括利益	11,083	10,936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,083	10,936

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(平成29年3月期 第3四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成28年3月期		当 期 平成29年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第3四半期 実績	年間 実績	第3四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	206	256	163	199	△ 21
抗うつ剤 レクサプロ	88	114	92	143	+ 5
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	90	116	107	133	+ 19
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 ترامセット	35	47	47	101	+ 33
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	73	92	61	76	△ 16
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	13	18	13	16	△ 3
抗ウイルス剤 アラセナ-A	14	18	13	16	△ 10
肺動脈性肺高血圧症治療剤 トレプロスト	4	7	10	12	+ 119
肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド	11	13	10	11	△ 12
真菌症治療剤 フロリード	9	11	8	10	△ 5
尖圭コンジローマ・日光角化症治療剤 ベセルナ	7	9	7	9	+ 8
後発品	79	107	100	115	+ 25
スキンケア製品	31	42	34	44	+ 9

- ・レクサプロは、自社販売と田辺三菱製薬株式会社への販売の合算
- ・アテレックは、アテディオを含む

(2) 医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など				
開発段階	適応症	剤型	備考	
MJR-35(ディナゲスト、ジエノゲスト) : 独国 イナファーム社(現 バイエルAG社のグループ会社)から導入				
*	承認取得	子宮腺筋症	経口剤	<効能追加>
*	臨床第Ⅲ相準備中	月経困難症	経口剤	<効能追加>
LBEC0101(未定、エタネルセプト) : 韓国 LG Chem社から導入				
*	申請中	関節リウマチ	注射剤	バイオ後続品
AJG533(未定、エロピキシハット) : EAファーマ(株)と共同開発				
	臨床第Ⅲ相	慢性便秘症	経口剤	
LBAL(未定、アタリムマブ) : 韓国 LG Chem社から導入				
	臨床第Ⅲ相	関節リウマチ	注射剤	バイオ後続品
RGB-10(未定、テリパラチド) : ハンガリー ケアデオン・リヒター社から導入				
	臨床第Ⅲ相	骨粗鬆症	注射剤	バイオ後続品
【医療機器】				
dMD-001(未定、アルギン酸ナトリウム)				
	探索的臨床試験 (パイロット試験)	関節軟骨損傷		

医療機器の開発段階：医薬品とは異なり第Ⅰ相から第Ⅲ相のような区分はなく、その内容により探索的臨床試験と検証的臨床試験に区分されます。

*：平成29年3月期第2四半期決算短信(平成28年10月31日公表)からの変更点